

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク



2022 年度事業計画書

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

目次

2022 年度 事業計画にあたって.....	2
(予定事業一覧)	
組織基盤強化事業.....	4
NPO 等団体活動支援事業	4
情報発信支援事業.....	5
たんたんフードバンク事業.....	6
防災支援及びモデル避難所拠点づくり事業	7
未来のまちづくり事業	9
課題を抱える親子・高齢者への支援	10
外国人に対する支援強化事業	11
地域の間活用支援事業.....	12
コロナ支援給付金の活用.....	13
組織概要.....	14

2022年度 事業計画にあたって

1. 本年度の基本方針

2010年6月9日、NPO法人 京都丹波・丹後ネットワークを設立して以来、①NPO法人等ネットワーク構築・活動支援事業 ②人づくり事業 ③地域デザイン(収益事業)などを軸に、人と人、団体と団体(NPO、地域、企業、行政、大学など)のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後地域の活性化をめざし、活動を始めてから今年度で11年目を迎えました。

しかし、2020年度はコロナに翻弄され、これまで当たり前に行ってきた交流等の事業が出来なくなり、コロナ禍でこそ必要な社会的弱者への支援をいかに実施していくべきかを模索する一年でした。

昨年度から実施してきた事業については大幅な変更を余儀なくされ、その中でもただ予算を使い切るというのではなく、どうすれば助成していただいたお金を活かすことが出来るのかを考え、小さな取組みを重ねることから始めていきました。外国人に対する支援については、新たな助成金を受けてコロナ禍での支援の在り方を模索しながら、小さな交流の場を創出することで効果が得られる支援と、出向いて孤立を防ぎ、傾聴の中で課題を聴き出す支援の2つに分けて実施してきました。それに伴い、12月にはフードバンクを立ち上げ、外国人や外国にルーツを持つ子どものいる家庭、ひとり親家庭、一人暮らしの大学生などに配布し、繋がる事が出来ました。事業計画とは程遠い内容となりましたが、事業の中で大学生や外国人の支援者にボランティアやアルバイトとして参加していただくことができ、また、福知山社会福祉協議会などに交流の場やフードバンクなどでご協力いただき、新たな人と繋がる大きな一歩を踏み出せたのではないかと考えています。

今年度においては、コロナ禍で実施できなかったまちづくり講座や防災についても、工夫の中で実施していきたいと思っています。また、改めて感じた人の死への向き合い方を、寺の住職さんや医療介護に従事されている方などからお話をいただき、誰もが希望を持って生きられる社会にしていきたいと考えています。また、地域をデザインする事業(情報発信支援)や外国人に対する支援などについても、コロナ禍を意識した継続の仕方を、試行錯誤しながら実施して、増加する外国人の支援や高齢者の介護等の問題、子どもの貧困問題、障害のある人の環境整備などを地域の課題としてとらえ、「地域を中心に行政や大学、NPO、企業等がそれぞれの役割を果たしつつ、一体となって共に支えあう地域づくり」を目指していけるような支援が出来ればと考えています。

また、地域の新たな課題である、情報弱者・IT弱者への支援の一環として、zoom講座の実施やパソコンを使用する申請が多くなった各種給付金の申請援助などを高齢者や外国人などに対して実施しており、今後もさらに支援体制を整えていきたいと思っています。このように、どのような分野においても、私たちNPOは「出来ない理由ではなく、どう変われば出来るのか」を考えられる組織でありたいと思っています。

また、昨年度パナソニック様の支援を受けて、実施してきた組織診断・組織基盤強化については、残念ながら継続支援は受けられませんでした。計画を見直しながらも、着実に基盤強化につながるよう努力していきたいと思っています。

2022 年度は、コロナ禍における当法人の NEW NORMAL を模索し、中間支援としての役割・機能を福祉の場に活かすための体制構築を行い、その成果を多様な形で発信するとともに、社会的な価値の創出に取り組むことを基本方針として運営していきたいと考えています。

2. 重点項目

当NPOの基盤強化(案)

- 地域のハブとしての役割強化
- 他機関との連携強化
- 人材のスキルアップ

未来のまちづくり支援

- 居場所づくり・交流の場づくり…孤立する外国籍や外国にルーツのある親子、高齢者や家庭に何らかの課題を抱える親子などが安心して集まれる場を作り、信頼できる関係を築くことで、協力し合って暮らせるコミュニティを作る⇒ドコモ市民活動団体助成事業(2021.9～2022.8)及びWAM助成子供の未来応援助成(2022.4～2023.3)により実施
- たんたんフードバンクを発展させ、食糧以外の支援も実施し、当事者のニーズに合ったマッチングバンクにする⇒ドコモ市民活動団体助成事業(2021.9～2022.8)及び赤い羽根共同募金事業フードパントリー活用による高齢者等生活困難者の見守り・傾聴事業(2022.4～2023.3)により実施
- 地域において防災の意識を高め、感染症を含めたBCPの策定を支援するほか、避難所設営訓練の場、コミュニティ再生の場を創設する⇒真如苑防災・減災助成(2021.8～2022.7)及び赤い羽根共同募金事業ダイバーシティを意識した災害時における避難所設営事業(2022.4～2023.3)により実施
- 今後増加する在住外国人に対する支援の質を高め、暮らしやすい地域にすると同時に、防災研修と交流会を行い、防災意識を高める⇒赤い羽根共同募金支援の質を高め、外国にルーツがある人が暮らしやすい地域にするために事業(2021.11～2022.9)、企業への提案により実施
- コロナ禍での困りごとに目を向け、with コロナ、after コロナに対応できる支援策を模索する⇒地域の福祉団体等に対して、給付金申請・助成金申請等の支援を行うほか、IT環境の構築等の支援を実施する
- たんたん X 交差点…「地域」を様々な視点から学び、未来のまちづくりを多様な主体が共に考え行動に結び付けられるようなまちづくり講座を開催⇒コロナ禍におけるワークショップ、講演会等に対応できる講座を実施

①組織基盤強化事業

具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化に取り組むため、中期ビジョン・計画に沿って、活動の持続発展、社会課題の解決促進、社会変革に向け、誰もが生き活きとくらす共生社会を目指す。

②NPO 等団体活動支援事業

NPO等支援(NPO 法人、自治会、市町村等)

⇒組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ

・NPO 活動分析・アドバイス等支援事業

内容： NPO からの依頼を受けて、年間を通して活動の分析・アドバイス等を行う。

・災害時連携NPO等ネットワーク実行委員会メンバーとしての活動

活動趣旨 近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO 等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の充実を図る。

活動内容 趣旨を理解していただき、市民や団体に参加を呼びかける

※ 「災害時連携NPO等ネットワーク」の充実を図るため、会議への参加

※ 京都北部独自の取り組み

・その他支援事業

- Web ページ及び Facebook ページによるNPO等向け情報発信
- NPO 法改正に伴う支援
- 助成金・給付金等申請・報告支援
- 会計・収支報告等支援
- マネジメント支援
- 人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり
- 必要な情報の多言語化

③情報発信支援事業(収益事業)

1 事業の趣旨・特徴

事業への想い

地域(企業)情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、住みやすい地域をつくり、地域経済の活性化を促す。

さらに、地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

事業背景

【京都北部の課題と事業の背景】

京都北部は海と山を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない。

また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのHPを持っていても、活用・更新されないままであったり、スマホ対応されていないなど、現状に即さないものが多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。

とりわけ、NPO にとっては HP などの情報発信手段を持たないところも多く、素晴らしい活動をしている、それを利用者などに知ってもらえないケースが数多く見受けられる。

特に福祉関係や人権などの NPO については、活動が知られていないために利用機会を失い、利用者の命を左右することも多く、今後行政の財源や職員数が減少していくことを考えると、一つひとつの活動を周知することはとても重要になってくる。

2 事業の概要等

●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン

- HPやSNSをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動内容や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につながるよう、①コンテンツの内容(何を誰に何のために発信したいのかなど) ②更新のしやすさ ③SNSとの連動 ④スマホ対応 ⑤魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のHPやFB ページ、ちらし等を作成
- 企業や活動団体の要望に応じた SNS 等講座を実施(zoom 活用、オンラインでのファシリテート等)

④たんたんフードバンク

予算:①共同募金助成事業(フードパントリー活用による高齢者等生活困難者の見守り・傾聴) 50,000円
(2022年4月～2023年3月)

②ドコモ市民活動団体助成(社会的要因で困難さを抱える子供たちと保護者へのサポート事業) 988,000円(うち今年度予算 680,265円) 前年度継続事業(2021年9月～2022年8月)

1 事業の趣旨・特徴

事業への思い・背景

コロナ禍において、経済的支援の必要な家庭や孤立を防ぐ必要のある人が増えており、昨年末から外国籍・外国人支援の一環としてたんたんフードバンク事業を実施してきたが、食糧支援だけでなく、当事者のニーズと支援をつなぐ事業に発展させ、対象もシングルマザー、シングルファザー、大学生等へ広げていく必要性があると感じた。

2 事業の概要等

- ・ 目的:食料支援を通して、傾聴・見守りを行い、それぞれが抱える問題・困りごと等を引き出し、支援につなげる
- ・ 目標:どのような課題にも対応できるよう連携先をふやすこと 支援者側のスキルアップ
- ・ 支援対象者:①外国籍・外国にルーツのある家庭 ②ひとり親家庭 ③子だくさんの家庭 ④その他一人暮らしの大学生・高齢者等
- ・ 寄附の公募方法:当 NPO のホームページ、SNS など
- ・ 配布希望の受付:当 NPO のホームページ、電話、相談のあった家庭など
- ・ 配布方法:ボランティア、アルバイトの他、連携団体

⑤防災支援(BCP 策定支援含む)及び

モデル避難所拠点づくり事業

予算:①真如苑 防災・減災助成(ダイバーシティを意識した廃校活用広域避難所モデル構築事業)400000 円
うち今年度予算 133,378 円)

前年度継続(2021年8月～2022年7月)

②共同募金助成事業(ダイバーシティを意識した災害時における避難所設営)70,000 円
(2022年4月～2023年3月)

1 事業の趣旨・特徴

事業背景及び必要性

京都北部では毎年のように自然災害が発生し、避難勧告・避難指示が出されることも頻繁にあり、避難される方の中には介護が必要な高齢者や障害者、外国人などが含まれる。日常的にその人たちを支援する NPO も存在するが、災害時にはそれらの NPO も被災する可能性があり、復興できなければ時には命にかかわるようなケースも出てくる。そこで、災害が起きても事業・業務を継続し、NPO と地域が連携する仕組みを双方が作っておくことにより、災害発生後の地域コミュニティの継続、再生につながる。

また、今後予想される南海トラフ地震のような大災害に対する避難所として、小学校跡地を活用したモデルを作りたいとの要望を受け、ジェンダーを意識した避難所モデルの創出を実現したい。

(目的)災害時要援護者を支援する NPO が災害に遭っても重要業務を継続できるよう、それぞれの NPO の想定被害状況を確認し、被災の程度や状況に応じた事業継続計画を立てておくことによって、より多くの災害時要援護者を救うことが出来る。また、自治会などにおいても災害時の対応を見直し災害時要援護者の把握と支援等の計画を立てておくことは、今後の大規模災害に備えるうえで重要である。この事業は、NPO と自治会等双方を支援し連携させることで、災害時に強いまちをつくり、誰もが安心してそのまちに住み続けることが出来る仕組み・体制を作ることを目的とする。

また、廃校になった小学校等を活用した新たな避難所モデルの創出により、全国から視察に来ていただけるような先進的な取り組みを実践する。

2 事業の概要等

防災研修の実施・コロナ等感染症を意識した BCP の策定等を支援する

- NPOのBCP策定講座の実施
- 自治会・コミュニティの防災訓練及び計画
- 防災BBQの実施(コロナの感染状況により変更あり)

廃校を活用した避難所モデルの創出

- 南海トラフ等大災害を想定
- ジェンダーの視点に立った避難所モデル
- コロナ等感染等も意識
- 行政・企業・大学等との連携も視野に

⑥未来のまちづくり事業

1 事業の趣旨・特徴

事業への想い

まちづくりを推進していくためには、様々な人が集まり、情報を共有し合い、話し合う場が必要となる。

市街地にそういった場が作れたことは未来のまちづくりに必ず通じると考えている。

私たちはこの場をより活用しやすいものとして、より多くの人、団体に使っていただけるよう発信していきたいと思っている。

事業背景

【事業の背景】

当 NPO の隣の空き部屋を、大家さまのご厚意で使用させていただけることとなり、どのような活用方法ができるかを話し合い、親子への支援・高齢者支援・講座などの開催を含むまちづくりの拠点として活用していくことにした。

2 事業の概要等

●「たんたん X 交差点」まちづくり講座 & 交流

【内容】まちづくりに関するテーマを設定し、専門の講師をお招きして講座を開催。前半は講座、後半は参加者で食事を取りながら交流。コロナ禍においてはオンライン講座等に対応。

【期間・日時】2018年3月～継続

【広報】HP、FB ページ、ちらし、口コミ

【検討課題】前年度は福知山公立大学の事業を活用し、3回実施することができた。今年度において、会場費や謝礼金等を助成金に頼るか、参加者から徴収するか、コロナ感染拡大前に実施していた食事の提供をどうするか等を検討する必要あり。

●たんたんX(大学×企業×地域×行政)プロジェクト

たんたんX交差点の参加者を中心に、地域・大学・企業の活性につながる新たな事業を多様な主体の中で生み出す

●市民・活動団体等のための各種講座

【内容】zoom 講座、ファシリテーション講座、SNS 講座(活動団体からの依頼)、認知症サポーター養成講座、認知症予防講座(コグニサイズ)などを予定

⑦課題を抱える親子・高齢者等への支援

予算:①共同募金助成事業(フードパントリー活用による高齢者等生活困難者の見守り・傾聴 50,000円
(2022年4月～2023年3月)

②ドコモ市民活動団体助成(社会的要因で困難さを抱える子供たちと保護者へのサポート事業 988,000円
前年度継続事業(2021年9月～2022年8月)

③WAM助成 子どもの未来応援助成(こどものためのブックパントリー及び絵本のある場づくり)
1,000,000円 (2022年4月～2023年3月)

④ろうきん(笑顔プラス)寄附金 (214,604円)

1 事業の趣旨

●課題を抱える親子等への支援

「ごちゃまぜひろば」:児童館協働事業を継承する形で実施したい

目的:それぞれの親や子が課題を抱えながらも、一つの場に集まり、様々な人と関わる中で、心の居場所を見つけ、笑顔を取り戻す。参加者は世代、国籍等を問わず、だれもがごちゃまぜで交流する中から、互いの困りごとや良さをみつけ、協力し合える関係を作る。(コロナの感染状況により変更あり)

●高齢者・高齢者を抱える人への支援

- ・ 緊急支援として、食料配達・見守り・傾聴・相談事業を高齢者にも拡大。
- ・ 高齢者に対する困りごとの中で、行政や他の組織が実施しておらず、見過ごされている課題を、講座や交流、フードバンクの食材配布等を通して洗い出し、対処方法を探る。⇒葬儀・墓の移転・遺品整理・片付け・身寄りのない人の病院等手続きなどを想定
- ・ 「出張写真撮影」:歳を重ねるにつれ、写真を写す機会が減っていき、気が付いたら集合写真しか残っていない、そんな中高齢者が増えている。子どもたちや孫のためにも、そして自分自身が生きた証としても、一年に一度、気に入った場所、気に入った服装で写真に残す。

2 事業の概要等

コロナ禍における緊急支援としてフードバンク事業を通して食料配達と見守り・傾聴・相談を行い、様々な支援に結び付ける。

また、NPO法人チャリティサンタとの連携により絵本・児童書等を、課題を抱える家庭の子どもに配布。対象にならない中高生には、WAM助成により図書券を配布する予定。

高齢者支援の一環として、音楽(ピアノの練習)を通して生きがいを持ち、孤立することを防ぐ事業を試みで実施予定。

⑧外国人に対する支援強化事業

予算:①赤い羽根共同募金(支援の質を高め、外国にルーツがある人が暮らしやすい地域にするための事業)1,640,000円

②ドコモ市民活動団体助成(社会的要因で困難さを抱える子供たちと保護者へのサポート事業 988,000円
前年度継続事業(2021年9月～2022年8月)

③ろうきん(笑顔プラス)寄附金

④真如苑 防災・減災助成(ダイバーシティを意識した廃校活用広域避難所モデル構築事業)400,000円
うち今年度予算133,378円)

前年度継続(2021年8月～2022年7月)

⑤共同募金助成事業(ダイバーシティを意識した災害時における避難所設営)70,000円
(2022年4月～2023年3月)

1 事業の趣旨

京都北部では近年水害などの災害が多く発生しているが、今後ますます増加するであろうと思われる外国人に対して、災害時の研修を行うとともに、平素から地域の人たちとの交流の場を創設すると共に、食糧支援や見守り・傾聴等を通して困りごと等を相談しやすい関係を作る。また、学習支援や日本語支援が必要な外国ルーツの子どもや保護者に対して個別に支援を実施する。

- ① 福知山(京都北部)で暮らす外国人への質の高い支援の実現
- ② 福知山(京都北部)で暮らす外国人のための災害時の支援

2 事業の概要等

支援者向けのスキルアップ講座を実施し、傾聴力、支援のノウハウ等を学び、実際の支援に活用する。受益者に対する支援は、フードバンク事業等を活用。

外国人、地域の人、子どもたち、支援者たちが一堂に集まる防災研修と防災BBQを開催し、災害時だけでなく平時から互いが助け合える環境を整える。(コロナの感染状況により変更あり)

⑨地域の場活用支援事業

予算:①WAM助成 子どもの未来応援助成(こどものためのブックパントリー及び絵本のある場づくり)
1,000,000 円 (2022年4月～2023年3月)
②真如苑 防災・減災助成(ダイバーシティを意識した廃校活用広域避難所モデル構築事業)400000 円
前年度継続(2021年8月～2022年7月)

1 事業の趣旨

京都北部でも廃校になる小学校が増加し、その活用の方法はさまざまであるが、地域でそれを維持・活用しているところは少ない。ここ福知山市においても、複式学級の解消により子どもたちにとって望ましい教育環境を整えることを目的に小学校の再編が進められ、2012年度から2020年度までに16校が閉校し、民間事業者による利活用が進んでいる。その中の一つである旧川合小学校においては、住民の手でなんとか運営していけないかという想いの中、昨年度より非営利の株式会社を立ち上げ、様々な試みを実施しておられるところである。

また、庵我地区においてはまちづくり協議会の発足にあたり、様々な取り組みを開始されているところである。

そこで、それぞれのコンセプトを共有しつつ、「避難所モデルの構築」「親子で過ごせる場づくり」という2つの提案を行い、連携して事業を実施することになった。

2 事業の概要等

庵我地域においてカフェを開店されたところの空き部屋を活用させていただき、小さな子供連れの親子が楽しみながら安心して過ごせる場にする。⇒児童館の閉館に伴う図書等も活用

外国人、地域の人、子どもたち、支援者たちが一堂に集まる避難所設営の実践とコロナ禍、ダイバーシティ、インクルージョンを意識してどのように校舎の利活用を行うかという避難所拠点づくりを実施する。

⑩コロナ支援給付金の活用

国等から出される給付金の申請を行い、人件費及び事業費として活用する。

主な給付金：事業復活支援金 895,434円

- ※ また、NPO法人、社会福祉法人、農事組合法人、小規模事業者などに対して情報発信・申請援助を行う。

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織概要

会員・寄付金

正会員(1口 1,000 円) 20名

寄附目標 500,000 円

役員体制

戦略的役員会(理事会、執行理事会など)を年数回開催することにより、それぞれの事業をより質の高いものとして、他機関などとの連携も進めていく。

事務局体制

当 NPO の副理事長が事務局長として通年勤務。他 NPO スタッフとして4名体制で活動。必要あるときはアルバイトを雇用又は他の理事・会員に呼びかけ、もしくはボランティアを募集する。

<新体制の組織図イメージ>

